

2021年12月17日(金) 第2856回例会 形式:対面 天候:晴れ 合唱:それこそロータリー

会長 室伏 学 幹事 望月 博文

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716
例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

室伏 学

先週の例会の翌日 11 日(土)、創立 60 周年の高杉実行委員長と 2 人で、平松礼二名誉会員宛のご案内状を持参して、町立湯河原美術館に伺って、当方の趣旨を説明するとともに、ご

講演や展示に関して、正式にご依頼して参りました。美術館学芸員の池谷さんによると、平松先生はとてもお忙しく、なかなか湯河原にはお越しになれないようですが、この度の当クラブ 60 周年に関しては全面的にご協力くださるということで、既にご快諾をいただいています。一部の会員の方には、搬入、搬出や警備等をお願いするかも知れませんが、ご協力ください。

先週の立山に関連したお話をもう少しさせていただきます。今回、鉄道利用を選択した私は、立山RCさんの例会当日、午前中の移動には時間的に余裕がありました。本来であれば、富山市中心部の「電鉄富山駅」から例会場のある「五百石駅」に向かう場合、富山地方鉄道の本線から直通の立山線を使って、10 駅 25 分というのが通常のルートです。時間を持って余した私は、わざと遠回りをして、本線から不二越線、上滝(かみだき)線直通の「岩峠寺(いわくらじ)駅」行きに乗り、終点で立山線に乗り換えて「五百石駅」に戻るとい、計 20 駅 48 分のルートで向かいました。

車両は 2 両編成のワンマン運転で、今回の往路で乗車した車両は、昔の東海道新幹線に似た感じのブルーの座席でレトロな内装でした。鉄道に詳しい安江会員によると、元・西武鉄道のレッドアロー号の車両だそうです。他にも、元・東急電鉄大井町線や田園都市線の車両も活躍しているようです。

途中、上滝線の「月岡駅」の脇では、何かのロケ撮影が行われていました。

ちなみに、湯河原も町役場観光課さんを中心に、ロケツーリズムとして、テレビや映画のロケ撮影の誘致に現在取り組んでいます。富山に行く前日(12 月 7 日)に、当泉地区で、あるテレビドラマのロケ撮影があり、私自身もエキストラの初体験をいたしました。映っているかどうかは判りませんが、情報解禁になるまではタイトルも公にできませんが、放送日等が確定したら、またお知らせいたします。

出席報告

会員	25 名	出席率	75.00 %
欠席	7 名	前回の修正出席率	91.67 %
(免除者)	1 名	前々回の修正出席率	87.50 %
ゲスト	1 名	事前メイクアップ	0 名
ビジター	1 名		

ゲスト 田崎 怜 様(カウンセラー)

ビジター 吉田 政隆君(D9214 RC of Moshi)

幹事報告 なし

連絡事項 24 日の例会でクリスマスケーキをお配りしますので、欠席しないようお願いいたします。

スマイル Box



神谷一博君

本日は9214地区アフリカタンザニアモシロータリークラブからお越しいただきました。吉田政隆様大変有難うございます。卓話よろしく。

神谷一博君

ガバナー月信12月号に写真と記事が載りました。ありがとうございます。

葉維英君

ひさしぶりに京都へ旅行に行ってきた。

西山敦君

12月15日五所神社歳市の市で賑わいました。

(編集 12月会報担当:渡辺久恭/クラブ会報委員会)



Jambo! 東部アフリカのタンザニア、モシ(Moshi)ロータリークラブから来ました吉田政隆(よしだ・まさたか)と申します。本日は私とロータリーの関わり、そして現在所属しているモシ RC の活動についてお伝えしたいと思います。

1. 私とロータリーの関わりについて

2000-2001 年度、第2600地区(長野)の茅野ロータリークラブからスポンサーをいただき、当年度のロータリー財団国際親善奨学生として、アメリカのミネソタ州、五大湖のスベリオール湖最上流部の港町ダルス(Duluth)にあるミネソタ大学ダルス校にて環境教育を学びました。そして帰国後に東京ローターアクトクラブに参加し、日本国内での勤務を経て、2017 年、JICA シニア海外ボランティア環境協力隊員としてボツワナへ赴きました。アメリカ留学時の経験を生かせると思ったのはこの時で、ロータリーとの縁に感謝しながらアフリカの地を踏んだことを覚えています。この時、日本とアフリカの人々のコーディネートをしたいと思い、2018 年よりハボローネ(Gaborone)RC のメンバーとして活動し、その後にタンザニアのモシ RC に移り、現在に至ります。

2. アフリカについて

アフリカ大陸の大きさを思い浮かべるとき、せいぜいヨーロッパと同じくらい、アメリカ合衆国より少し大きいくらいかな、という風に見えるのですが、これはメルカトル図法の特徴(高緯度ほど大きく投影される)によるもので、実はアフリカ大陸の面積はアメリカ合衆国の3倍あります。国の数は未承認国(西サハラ、ソマリランド)を含めて56、人口は全土で9億人ですが、平均年齢が若いこともあり、2050年には20億人に到達すると予測されています。アフリカというと「植民地支配」や「奴隷労働への嫌悪感」、「紛争が多い」というイメージがあるかと思いますが、このうち「紛争」のイメージは真逆と言えます。少なくとも私の周りのアフリカの人々は平和主義で、争いを嫌い、所有権の概念が曖昧な「シェア文化」が根付いているほどです。気候は(人が住む場所は)温暖で、地下資源も豊富にあり、しかし格差社会が過酷であるため、今後の発展においては「公平」と「教育」がキーワードと考えられます。

3. タンザニアについて

続いてモシ RC のあるタンザニアについてご紹介します。面積は日本の2.5倍、人口は6000万人で、GDPは日本の1/80(1人当たりだと38倍)という状況です。公用語は英語ですが、スワヒリ語文化圏の中心的な国です。気候は赤道のすぐ南であるため熱帯ですが、アフリカ大陸最高峰(5895m)のキリマンジャロ山には氷河がみられるなど、国土の植生は熱帯雨林から高山植物までバラエティに富んでいます。

4. モシロータリークラブについて

モシ RC は第9214地区(ウガンダとタンザニア)、キリマンジャロ山の麓に位置するロータリークラブです。2017年に急死した財団会長エレクト Sam Owori 氏の地元地区で、昨年9211地区から分離しました。モシ RC は1959年設立され、今年新たに6名の新メンバーを迎え、全22名の陣容です。現在はコロナ禍の影響もあり、例会はリモートがメインですが、あるときは誰かの事務所、ロータリーピースガーデン(モシ RC で造営した公園)での開催となることもあります。

モシ RC と日本の RC での違いはいくつかありますが、大きくは会費が安いことが挙げられます。理由として、タンザニアはグローバルグラントプロジェクトにおいてプロジェクト引き受け側になる地域であり、貧困、格差、犯罪、教育、衛生といった解決すべき社会課題が今、目の前にある状態です。

クラブの風土として面白いと感じたのは、和気あいあいとしている部分でしょうか。時に点鐘を忘れる、平然と遅刻するなど、ルーズな一面もありますが、あまりかしこまらない穏やかな雰囲気があります。今、タンザニアでは、小学校のトイレ建設による衛生管理と教育の実現など、小さな変化がたくさん必要です。もしご検討いただけるのであればグローバル資金、クラブ間協力プロジェクトなどの計画がありますので、コラボレーションできれば幸いです。

本日はありがとうございました。



室伏会長とペナント交換